ツヴァイク全集

7

無口な女

内垣啓一
近藤公一
訳

無口な女

内垣啓一
近藤公一 訳

みすず書房

ツヴァイク全集 7
無口な女
内垣啓一
近藤公一
共訳

1976年12月15日 印刷
1976年12月20日 発行

発行者 北野民夫
発行所 株式会社 みすず書房 〒113 東京都文京区本郷3丁目17-15
電話 814-0131(営業) 815-9181(本社) 振替 東京0-195132
本文印刷所 理想社印刷所
扉・カバー・表紙印刷所 栗田印刷
口絵印刷所 京美印刷
製本所 鈴木製本所

© 1976 in Japan by Misuzu Shobo
Printed in Japan
書籍コード 0397-00071-8005
落丁・乱丁本はお取替えいたします

目次

ヴォルポーネ……3
貧者の羊……135
無口な女……229
訳者あとがき……359

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongb

ヴォルポーネ

——無情な喜劇——

内垣啓一訳

Volpone

まえがき

「ヴォルポーネ」は、シェークスピアの同時代者であり、またその競争者でもあったベン・ジョンソンの有名な喜劇で、一六〇七年に刊行された。ドイツの劇場ではまだ一度も上演されたことがない。ここに示す改作は、台詞および少なからぬ登場人物を全く自由に変形したものである。

一九二六年

シュテファン・ツヴァイク

登場人物*

ヴォルポーネ（狐）　金持の近東（トルコ）人
モスカ（蒼蠅）　その居候
ヴォルトーレ（禿鷹）　公証人
コルバッチオ（蒼鷹）　年をとった高利貸
コルヴィーノ（鴉）　商人
レオーネ（獅子）　海軍大尉（カピターノ）、コルバッチオの息子
コロンバ（鳩）　コルヴィーノの妻
カニーナ（鶴）　高等淫売婦
裁判官
警部
警官
廷吏
召使

所　ヴェニス
時　ルネッサンス

演技上の指示
コメディア・デラルテとして、軽く、速く、写実的というよりはむしろ戯画的に演じるべきである。
テンポ――アレグロ・コン・ブリオ（速く、生き生きと）。

＊　登場人物の名前はイタリア語の動物名で、それぞれの性格を象徴している、例えばヴォルポーネは狐、モスカは蒼蠅、以下禿鷹、蒼鷹、鶴など。

第一幕

第一場

ヴェニスの或る邸宅(パラッツォ)の中のヴォルポーネの部屋、広々ときらびやかにしつらえてある。上手(かみて)にある幅の広い贅をこらしたベッドが、ヴォルポーネの病床で、カーテンによって他の視線からさえぎられる（ただしその際にも、舞台上の人物には見えないが、観客には見える仕組である）。早朝。カーテンはさも病室らしく、半ば下ろされている。

モスカ　（ヴェニス人、若くてすらりとした、威勢がよくて敏捷な青年、黒い服を着ている。側面の扉から慌しく駆けこんで来て、手を叩く）おおい！　みんな！　朝食を持って来い、旦那様のお目覚めだ！

召使たち　（どやどやとあわてて入って来る）

モスカ　ベッドのそばへお持ちしろ！　いいか、旦那様は弱っておられるんだぞ、お気の毒にまた寝つけなくて、夜通しさんざんの苦しみようだった、この分じゃひょっとすると、ヴェニスの鐘の音(ね)をお聞きになれるのもそう長いことじゃないかもしれん。しかし、お前たちはそ知らぬ顔をして、楽しくやってくれ、苦しそうな声を出されても、聞こえない振りをしてろよ、あの方には同情は禁物だからな、威勢よくてき

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

ぱきはきはきとやってのけろ。それからお前はな、マンドリンを弾いてお気にいりのあの歌を歌ってさし上げろ。じゃみんな、ぴちぴち愉快に屈託なくやってくれ、陽気に跳ね廻ってろ、そのあいだにこちらへおつれして来るからな。（再び部屋の中に去る）

第一の召使　（朝食を運びながら）おまえには信じられるかね、ヴォルポーネの旦那がほんとうにそんな病気だなんて？　ヴェニスの象徴たるライオンにかけて、おらには信じられないな。だっておまえ、つい一昨日も例のカニーナのお越しで、なんと夜通しおらの頭の真上で、ベッドが踊るような騒ぎだったぜ、床はきいきい鳴るし、おら毛布をひっかぶって耳を押えてなきゃならなかったぜ。

第二の召使　なあに、カニーナとお楽しみだったってのは、おおかたあの居候の仕業だろうよ。あいつときたら、旦那のお酒は飲み放題、財布のお金は使い放題、食事も一緒で舌鼓は打ち放題だ、どうして旦那の色女とも寝放題とこずにはおくもんか？　おらにはまあ、ヴォルポーネの旦那の病気は信じられるな、癇癪病ってんだよ、癇癪玉のちょいと下には死神がござるのさ。

第三の召使　（楽師、その間に位置についている。マンドリンに合わせて歌い始める）

金は世界を　馬鹿にする。
金を寝かせる　馬鹿な奴、
人に貸すのも　やはり馬鹿、
ちびちび利子を　取りたてる。
浪費する奴　もっと馬鹿。

金を好く馬鹿　憎む馬鹿、
なんとしても　ままならぬ、
呪ってみても　祟めても、
どうしてみても　癪の種。
利口ぶっても　瞞される、
金のわなには　みなかかる。

ほんとの金貨は　丸いもの、
くるくる廻って　雲がくれ。
土にうめても　かくしても、
逃げだすことに　変りはない。
無常迅速　金の常、
追いかけたって　つかまらぬ。
持てば持ったで　きりがない、
足すりへらし　駆けだして、
もっともっと　ほしくなる。
くたびれはてて　見廻せば、
いずこも同じ　ていたらく。

金は世界を　支配する。
王侯貴族も　なんのその、
おべっか使う　やつばらを、
笛に合わせて　踊らせる。
神のつくった　この世界、
金をめぐって　空まわり、
開闢以来　いつの世も、
東西南北　どの国も、
同じ笛の音　踊りの手。
世界は馬鹿に　なりきって、
金の廻りを　踊るだけ。

ヴォルポーネ　（高価な衣裳をつけた、精悍な顔付の、がっしりした男。歌のあいだにモスカに支えられて現われ、やっとの思いでベッドまで身体を引きずって行く）みんなご苦労、楽師や、お前もご苦労だった！音楽は病気を治すとかいうが、本当にそうだったらなあ！　だが昨夜という昨夜は、わしはもう二度と日の目を拝むことはないと思ったぞ！　やれやれ疲れた、これでわしもしばらくは楽になるかもしれん。みんな、心配をかけてすまなかったな、さ、わしを一人にしてくれ。

召使たち　（お辞儀をして去る）

ヴォルポーネ　（ベッドのほうからこちらへ向き直って）もう行っちまったか？

モスカ　（扉まで行って）ほれ！　栓をさしましたよ！　ではどうぞご機嫌うるわしく。病気よ去れ、福の神よやって来い！

ヴォルポーネ　（こ踊りしながら窓際へ行き、カーテンを押し開く）

おお太陽、運河の上にさし昇る朝日よ、
さあ、お前の金色の光でわしの顔を洗ってくれ。
ほれ、わしの腕にも手にも光をまき散らし、
全身の血管で、お前を吸わせてくれ、
黄金こそすべてだ、万能の霊薬だ、
この世の呼吸と神経を甦らせるものだ。
わしのふところへ来い、さあ来い、不滅の宝よ、
この貧しい地上に天から降って来い、
さあわしに身を任せるがよい！

（不意にそっぽを向き、カーテンが落ちてくるのを放ったらかして）

待てよ、お前がなんの用に立つかな、
夜ともなればまるでいぶし銀だ、

汗ばんだ手を震えながらさし出す者には、
相手かまわずに身を任せて、
貧乏ぼけした手合いの銅貨を金貨に見せかけ、
万人に恩を施して、感謝されない売女だ。
お前を独占しないかぎり仕合せにはなれんのだ。
せいぜいお前の金メッキをみんなに恵んでやれ、
わしには用はないぞ、わしにはわしの光がある。

（長持に歩みよって、それを開く、中には黄金、宝石の山。吐息をついて）

これこそわしの太陽だ、さあ輝いてくれ、
恋人の目のように広い世界の片隅で、
自分の天国の主にだけ姿を見せてくれ、
燃え上がれ、さあ燃えろ、金色の瞳よ、
この世の星よ、お前の主人が跪くのだぞ。
黄金、黄金、わしの太陽、わしの光、
さあわしの手を満たしてくれ、鳴り響け、
金貨の音楽、きらきらと光れ、宝石、
わしにからまれ、腕輪よ、踊れ、鎖よ！

ああ、聞きわけのよいお前の肌ざわり、
お前さえいてくれたら、わしは神もいらぬ。
富こそ大いなる神だ、地上の主だ、
始めにして終り、アルファベットさながらに、
この世のすべての言葉を秘めた泉だ、
お前を使いこなす者は人生の主になれる、
栄誉も恋も名声もありとあらゆる快楽も、
お前の金色の文字で綴ることができる、
ついには、神よ、お前とひとしく不滅の身にもなれるのだ！

（立ち上って、冷淡に眺めているモスカをふり返り）

どうしたんだ、モスカ？　なぜわしの黄金にお辞儀をせんのだ？

モスカ　いやなに、ちょいと気の毒になったもんで。

ヴォルポーネ　気の毒？　どうしてだ？

モスカ　だって長持の中に監禁されてるんですからねえ。

ヴォルポーネ　じゃお前ならどうする？　みんな解放しようってのか？

モスカ　私に力があったら、羽を生やしてやって——

ヴォルポーネ　馬鹿言え！　黄金を自由の身にしたいだと、世界を結ぶ神を？　いいか、黄金って奴は水銀

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb